

令和3年度第4回市政懇談会 会議録（要旨）

【日 時】 令和3年4月15日（木） 18時30分 ～ 19時30分
【場 所】 西宇部ふれあいセンター
【出席者】 ○篠崎市長 ○地区代表者（5名） 西宇部地区コミュニティ推進協議会会長 : 朝倉 孝吉 西宇部地区社会福祉協議会会長 : 平川 悦士 西宇部地区コミュニティ推進協議会副会長 : 小川 善徳 西宇部地区民生児童委員協議会会長 : 佐々木 巖 西宇部地区福祉委員協議会会長 : 高橋 富美子 ○政策広報室長 ○総合戦略局 ○事務局（広報広聴課、政策調整課）
【概 要】 1 開会 2 参加者自己紹介 3 市長あいさつ 4 意見交換・懇談 5 閉会
【意見交換・懇談】
○地区要望全般について 【コミュニティ推進協議会会長】 ・厚東川堤防にある飼育小屋の早期撤去を要望中。 ・宇部駅北側地区住民の利便性向上のため南北連絡通路の整備について要望中。 ・梶堀踏切の通過車両が年々増加傾向にあるが、踏切が狭くスムーズな通行が困難であること、当該踏切の周辺道路の幅員も狭いうえ、串や広瀬地区の子供たちの通学路にもなっており大変危険な状況にあることから、早期拡幅を要望中。 【市長】 ・飼育小屋の撤去については、県有地であるため、引き続き県に行政指導を依頼。 ・宇部駅の南北連絡通路について、宇部駅はJR山陽本線の拠点であり、今後の中期計画を考えるうえで重要な地区のため検討する。 ・本日（4/15）広島のJR西日本の副社長と山口支社長が来庁されたため、山陽本線や宇部線の踏切等に関する地元要望について今後相談していくことを依頼。 ・そのためJR西日本と協議しながら、また、県道整備は県との連携も重要であるため、県土木へ要望していく。

○今後の学童保育の在り方、幼・保・小の連携の充実について

【社会福祉協議会会長】

- ・保育園を卒園した子供たちが学童保育を利用。子供たちは楽しく過ごしているようであるが、保護者と指導者からはそれぞれの立場から不平や不満がある。長年の課題であり解決に至っていないが、西宇部地区だけの問題ではないと思うので、今後の学童保育のやり方や進め方を検討して欲しい。
- ・ほとんどの子供たちは保育園・幼稚園等を経て就学する。市は幼保小の連携・推進を進めておられ、自分達も西宇部・厚南地区の委員をしているが、(会議の)実施回数が非常に少ない。子供の継続した保育・教育を進めていくには、もう少し幼稚園・保育園の意見を小学校に取り上げて欲しいし、幼稚園・保育園も小学校にお願いに行かなければいけないと考える。行政は小中連携も考えているとのことであるが、義務教育の範囲内で継続した保育・教育を進めていくためには、幼保小連携、あるいは小中連携をしっかりと考えてほしい。

【市長】

- ・学童について、子供の数は減っているが学童の利用者数は増えている地区もある。実施については、ふれあいセンターや学校、民間施設を借用している箇所があり、地区ごとに様々な課題がある。共働き世帯が増えて学童保育の利用ニーズが出てきていると認識しているので、今後の在り方を検討していきたい。
- ・その上で、幼保小の連携が重要になってくると思う。就学時のギャップで困惑していること、さらに学童保育に関係したこともあると思うので、今まで以上に幼保小の連携を強化していかなければいけないと思っている。幼稚園・保育園と小学校との対応の違いで、子供に影響が出ることが決してないように、しっかり連携して、子供たちが安心して受けられる教育環境の整備に取り組んでいきたい。何かあれば市に提言してほしい。

○浄化槽の設置について

【コミュニティ推進協議会副会長】

- ・松見町で直面しているのが下水道工事で、当該工事の見直しにより各家庭で総合雑排水処理を行うようになった。その工事に130万円から150万円必要で、浄化槽だけでも100万円程度必要。現状の補助額では個人負担が大きいので補助金の増額を検討してほしい。
- ・松見町自治会は240世帯あり、うち120世帯が見直しにより工事を予定。

【市長】

- ・新制度を創設。下水道事業の計画見直しに伴って、補助金の交付制度を今年度4月1日から一部区域において変更し、松見町であれば、従来の補助金に9割ほど上乘せし、5人分の浄化槽であれば、補助限度額は従来33万2千円のところ、63万円まで交付できるように拡充した。そのほかの詳細は、後日、上下水道局から副会長に説明させる。

○高齢運転者の免許自主返納制度の強力な支援対策について

【民生児童委員協議会会長】

- ・見守りをしている高齢者の中に自動車を運転していることを不安に思う方がいる。しかし、公共交通の利便性が乏しい地域（山陽本線北側地域）の80歳を超えた方に対しては運転免許証の返納を促すことが難しい環境にある。自主返納制度の在り方について、行政として再考して欲しい。

【市長】

- ・免許返納に伴う生活の変化が切実な問題。
- ・地域内交通があるが利用し難いとの声があるのが実情であるため、改めて宣伝しニーズに合う形にしないといけない。地域内交通を充実させ使い易い形にしていくことが大切。
- ・新しいシステムとして、社会福祉法人の送迎車両に一般の方が乗車できるような仕組みを開発している国内事業者がいる。当該社会福祉施設の利用者でなくても、送迎ルート上であれば予約することで近くの目的地まで送迎するシステム。このように地域を通行している事業者の車両の利活用も検討し、実証実験を西宇部地区でも実施できればと思っているため、その際には協力をお願いしたい。

○高齢者の社会的つながりの場所としての児童公園の活用について

【民生児童委員協議会会長】

- ・西宇部地区の独居高齢者は360名で、日常的に会話ができる機会が少ない。高齢者同士の交流の場として、地域内にふれあいサロンが12箇所あるが2ヶ月に1回程度、ご近所福祉サロンは月に2回程度の開催で、高齢者が日常的に交流できるような機会に至っていない。開催する際は、地域支援チームや包括支援センターが携わり、開催する際には何かしらのテーマが掲げられイベント的なものが入ってくる。やらされ感があるサロンについては参加しない高齢者がおられ、その方の行き場所がない。
- ・アイデアの一つとして、子育て環境の変化から児童公園を利用する子供が少ないので、日陰で休憩できる場所などを整備して、自由に利用できる高齢者の憩いの場として活用できないか。モデル的に実施し、その結果によって、効果があれば共有化と周知、効果がなければ原因を検証し新たな取組に繋げるなど、行政が取り組んで欲しい。

【市長】

- ・子育て世帯の公園利用については、近所の公園よりも、駐車場と遊具が整備されている公園にシフトしている。
- ・人と繋がり健康を維持するため、高齢者が外出したい気持ちになる仕組みを作りたい。どのようなものがあれば高齢者が気軽に外出できるのかを今後提言いただきたい。

○死亡時の手続について

【福祉委員協議会会長】

- ・死亡時に手続きをしなければならない窓口が多く、時間と労力の負担が大きい。窓口を一本化し、ワンストップで全ての手続きが完了できるようにして欲しい。

【市長】

- ・令和2年2月よりワンストップサービス「ご遺族サポート」を実施中。
- ・事前予約制で、可能な限り市民課で一括して受け付け、手続きの案内や各種書類の作成支援を実施。市民課で対応できない手続きは、職員が担当課まで案内し、一緒に手続きを行う。
- ・ご存知なかったことについては、市の周知不足が原因であるため、改めて周知を徹底する。
- ・新庁舎移転後は、手続きがワンストップで行える総合窓口の設置を準備している。

○火葬場の老朽化による建て替えについて

【福祉委員協議会会長】

- ・火葬場の老朽化が著しいため、建て替えを検討して欲しい。
- ・他市の火葬場では火葬の間に施設内で食事ができるため、建て替えの際には食事が出るよう検討して欲しい。

【市長】

- ・老朽化の対応については検討していきたい。
- ・食事が出ることについては、宗派や火葬の時間帯など様々な要因があるため、葬儀業者や宗教関係者等から意見を聞きながら、利用しやすい火葬場の設置に取り組みたい。